

公益財団法人名勝依水園・寧楽美術館

平成30年度事業報告

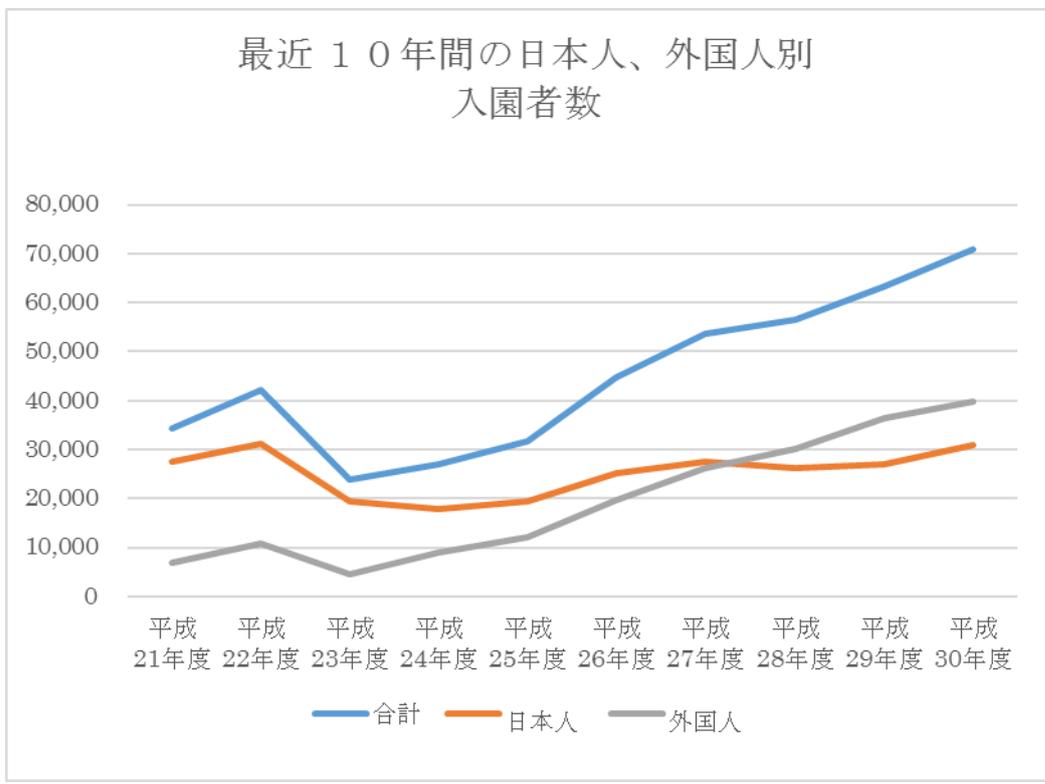
1. 公益目的事業の状況

(1) 入園者数について

庭園事業および美術館事業の最近3年間の入園者数および入園料売上は以下の表の通りである。また最近10年間の日本人、外国人別年間入園者数は図の通りである。

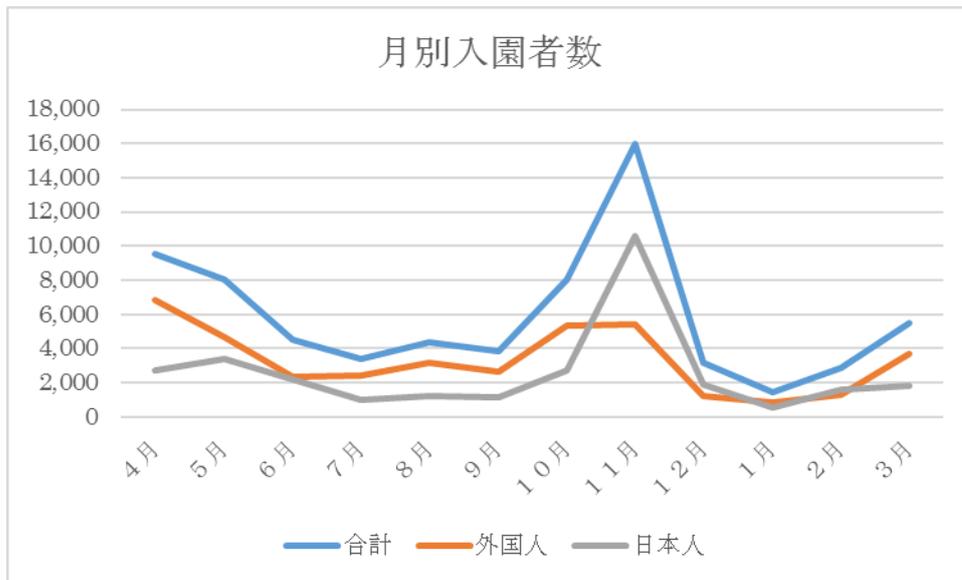
最近3年間の入園者数と入園料売上

		平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	対前年度 比
入 園 者 数 (人)	一般 (@900)	46,314	51,026	57,859	113 %
	大学生 (@810)	2,479	2,875	3,216	112 %
	中・高生 (@500)	2,171	2,326	2,411	104 %
	小学生 (@300)	925	1,168	1,251	107 %
	特別 (@500)	1,146	1,275	1,466	115 %
	団体 (@810)	3,460	4,525	4,558	101 %
	合計	56,495	63,195	70,761	112 %
	外国人 (内数)	30,232	36,288	39,894	110 %
入園料売上 (円)	47,658,550	53,462,140	59,707,900	112 %	

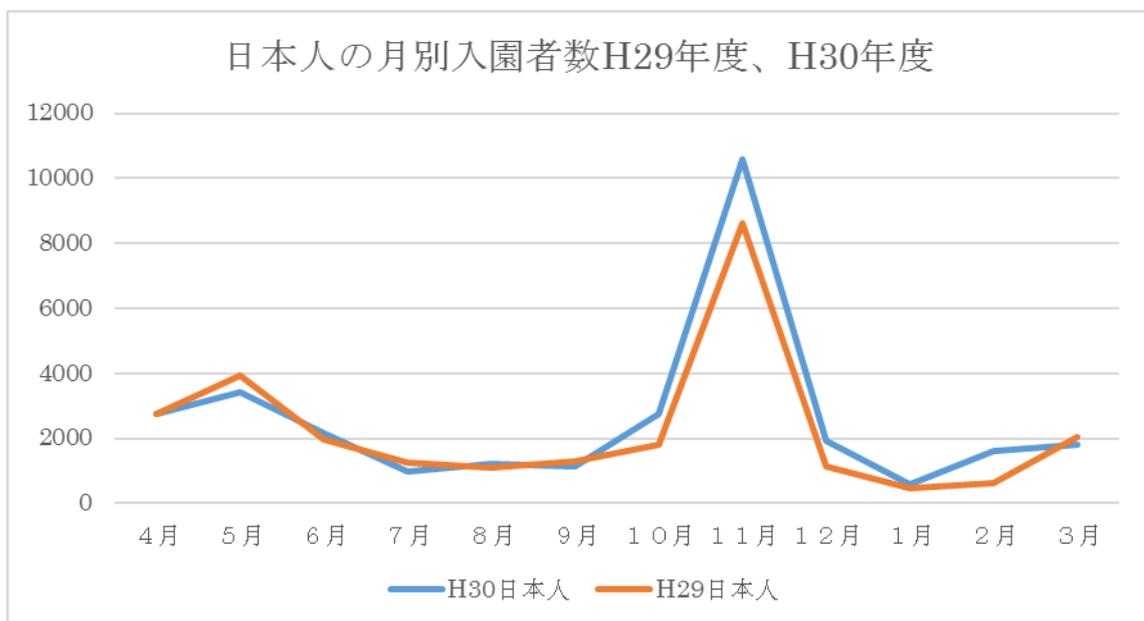


平成 30 年度の入園者数合計は、前年度比で 112%と増加した。(上期は前年同期比 102%であったのが、下期で大きく増加。)。そのうち外国人は前年度比 110%と、全体ののびをやや下回り、日本人が、前年度比 115%と、この 10 年間で最大ののびとなった。

この結果、最近 10 年間の日本人、外国人別入園者数のグラフに示されるとおり、平成 28 年度より、外国人が日本人を上回り始めたが、今年度の外国人の比率は前年度の 57% から 56%へとやや縮小した。



月別入園者数を、外国人、日本人に分けてグラフにすると上図の通りである。
 年間では外国人が日本人を上回っている（上述の通り外国人が56%）が、紅葉シーズンの11月は大きく、また12月、と2月は、やや少し日本人が上回っている。



日本人の月別入園者数のH29年度とH30年度をグラフにすると上図の通りである。
 上期はH30年度とH29はほぼ同じであるが、下期は3月を除き各月とも、H30年度が、H29年度を上回っている。10、11月は興福寺中金堂の再建の影響が考えられ、そうであれば一時的なこととなる。2月は後述の「依水園のひなまつり」を初めて開催したためである。

入園料売り上げも入園者数に準じて前年度比112%となった。

(2) 美術館の展示について

美術館は、以下の企画展および特別展示他を、実施した。

①企画展

上期

- ・平成30年29年4月1日(日)～平成30年9月10日(月)

テーマ：開園60周年記念「依水園主人 關藤次郎の軌跡」

依水園の財団法人としての一般公開開始から本年は60年を迎えた。これを記念して、明治時代に現在の依水園を作り上げた關藤次郎の功績を紹介するはじめての回顧展を開催した。

關藤次郎(1864-1931)は奈良市下御門町で代々麻織物や呉服を扱う商家に生まれ、のちに実業家として活躍した。一方、幼少より和歌・漢詩に親しみ、さらに茶道・絵画へと数寄の世界を極めた。明治30年代からは別邸として水門町に庭園・建物を次々に増築、依水園と命名して多くの文化人との交流の場とした。翁の高い見識と奈良古物への思慕から生み出された好み道具の数々、そして近代奈良の文化が凝縮された当時の依水園の様相を振り返った。

なおこの展示に關藤次郎の縁者の知人の子供の静岡市美術館の学芸員(当時、現在静嘉堂文庫勤務)が来園され、これが、藤次郎が孫娘に贈った曲水の宴のひな人形他が当財団に寄贈されることにつながった。

・特別陳列

- ・平成30年4月1日(日)～4月14日(土)

重要文化財「亦復一楽帖」第十回「観古寶劍」(かんこほうけん)

田能村竹田(たのむらちくでん)筆

下期

- ・平成30年10月1日(日)～平成31年2月24日(日)

テーマ：高麗青磁翡色と技法・李朝の粉青沙器

高麗王朝建国から1100周年を迎える2018年を記念し、翡色と、細やかな象嵌の技法を施した文様に焦点をあて、茶碗をはじめとする高麗青磁をまた次の変遷として李朝王朝(1392-1910)に栄えた粉青沙器への技法を紹介した。

本展は、大阪市立東洋陶磁美術館で開催の特別展示「高麗青磁-ヒスイのきらめき」(平成30年9月1日(土)～11月25日(日))、大和文華館で開催の特別展「建国1100年 高麗-金属工芸の輝きと信仰-」(平成30年10月6日(土)～11月11日(日))、と特別連携して三館連携の展示として開催し、連携美術館の入場券持参者への入園料の割引を行った。

・特別陳列

- ・平成30年11月1日（木）～11月14日（水）
重要文化財 「亦復一楽帖」 第十一図「蘭竹」（らんちく）
田能村竹田（たのむらちくでん）筆

②依水園開園記念日特別展示

昨年同様の内容を以下の通り展示した。

日時：平成30年6月1日

場所：美術館の軒下外廊下

展示内容：依水園の歴史、関わってきた人たちの写真のパネル

③亦復一楽帖の修復

台地の糊剥がれが数か所見られたので文化庁に問合せ、その指示により株式会社文化財保存に依頼して、10月に修復し、結果を奈良県に報告した。同時に、帙や包裂シミが見られたので、これらを新調した。

④収蔵品の貸し出し

収蔵品の他美術館への貸出に関しては、今年度は、前述の三館連携の展示の大阪市立東洋陶磁美術館で開催の特別展示「高麗青磁-ヒスイのきらめき」（平成30年9月1日（土）～11月25日（日）、に高麗青磁と1910～1930年代以前の陶磁器12件（14点）の貸出を行った。

⑤「依水園のひなまつり」の開催

前述の通り、依水園の前所有者である關 藤次郎が孫娘の初節句に贈った「曲水の宴」の平飾りひな人形をはじめとして、稚児雛、市松人形等が藤次郎の縁者より当財団に寄贈された。これらを、「依水園のひなまつり」と題して平成31年2月4日（月）より3月3日（日）まで依水園母屋の立礼の間と藤の間で公開展示した。（ひなまつりのみの観覧料400円、通常入園者は追加料金200円で観覧可）。

記念講演会「おひなさまと人形文化」（講師 林直輝氏（日本人形文化研究所長））を2/16（土）に開催した。この展示用に美術館グッズとして、ひな人形の絵葉書、クリアファイル、マスキングテープを用意した。プレスリリース前の平成30年12月26日朝日新聞東京、大阪本社版夕刊に、曲水の宴のひな人形が発見されたニュースとして大きく掲載されたこと、プレスリリース後は、NHKの奈良ローカル放送や新聞各紙の関西版、奈良版への掲載、全国放送のNHK教育日曜美術館のアートシーン（展覧会情報）での紹介もあり、特に会期の後半に多くの観覧者を集め、京都在住の人間国宝、桐壱人形作家の林 駒夫氏も観覧された。

入場者数は以下の通り。

ひなまつりのみの入場者	大人	912名、高校生等	110名
通常入園者の入場者		1,337名（昨年 の同一時期と比較した入園者数の増とほぼ同じ）	
合計		2,359名（643,200円）	（98人／日）

ひなまつりグッズ売上合計 315,150円

なお来年度以降も人形の傷み具合で頻度を勘案しながら本展示を継続する予定である。

(3) 広報宣伝、営業企画活動等について

①開園記念日

6月1日の開園記念日を割引料金とする企画を今年度も実施した。また昨年度に続き、この日に当財団敷地内茶室の三秀亭で中谷 美風煎茶美風流四世家元が煎茶席を開き、入園客に煎茶道を体験して頂くイベントを企画した。

②プレスリリース

美術館企画展、依水園開園記念日に関してプレスリリースを実施した。

③リーフレット作成

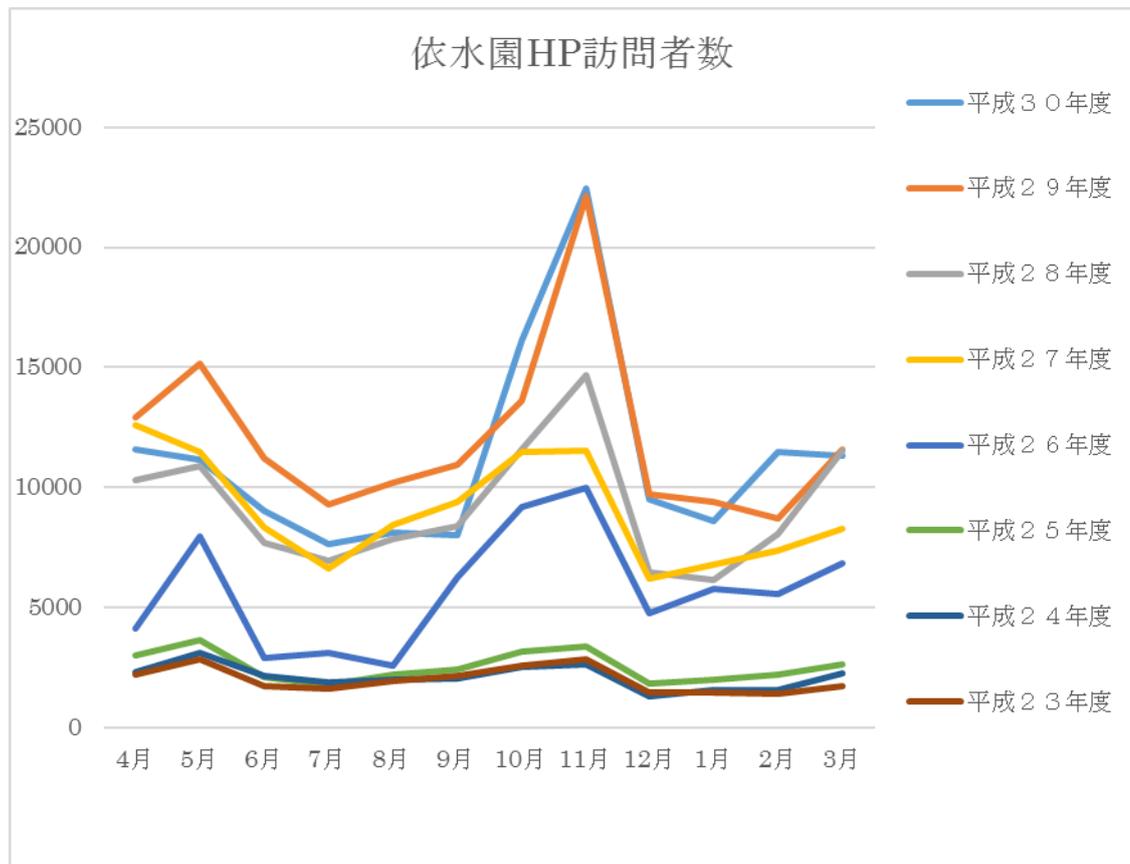
企画展に関してリーフレット(A4両面)を作成し市内観光案内所、ホテル等に配布を依頼した。

④ガイドブックの発行

数年来、発行を計画していた依水園のガイドブックを「依水園庭園と寧楽美術館の名品 (Isuen Garden and the Neiraku Museum of Art)」として開園記念日にあわせて発行した。(全64ページ、制作 株式会社福本事務所、翻訳 人文社会科学翻訳センター、定価1,000円、初版3,000部発行。)来園の記念としての購入を想定して、依水園内でのみ販売している。

⑤ホームページ

ホームページの8年間の月別訪問数は、以下のグラフの通りである。



平成26年10月に、英語対応、スマートフォン対応を目的としてホームページの改訂を行って以降、アクセス数は大幅に増加してきたが、今年度は、年間合計135,031件のアクセスとなり、前年度比93%と、改訂以来初めて減少した。ただし減少したのは主に上期であって、下期はほぼ前年度なみであり、特に2月は、依水園のひなまつり展開催のため、昨年度の131%となった。入園者数が上期はほぼ横ばいであったのが、下期に大きく伸びたことと、相関しているといえる。

ホームページの花だよりの更新は36回（前年度44回）、また合計91枚（前年度115枚）の写真更新を行った。

⑥トリップアドバイザー (<https://www.tripadvisor.jp>)

4年連続で、平成30年5月に世界最大の旅行サイト「トリップアドバイザー」の「エクセレンス認証 2018(Certificate of Excellence)」を受賞した（星4つ半で昨年と同じ）。その証明書は、掲示板に掲示している。

平成31年5月24日現在で、旅行客のコメントでの評価は、461件中とても良い287、良い113、普通52、悪い8、とても悪い1、で平均4.5であり、あいかわらず例年とほとんど変化はない。

奈良の観光地での順位は、奈良公園、東大寺、春日大社、奈良国立博物館、東大寺

二月堂、唐招提寺、に次ぐ7位（昨年6月は6位。依水園より上位に春日大社、奈良国立博物館が入った。1位が東大寺でなく、奈良公園になった。）。コメント累計の言語別は英語261、日本語85、中国語（簡）63、中国語（繁）61、フランス語29、スペイン語21、イタリア語20、他43（ポルトガル語、ドイツ語、ロシア語等）で、比率は変わらず。

⑦「ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデン」のランキング

米国の日本庭園専門誌「ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデン」の2018年の国内日本庭園ランキングは、18位とさらに後退した。2010年より、41位、40位、20位、20位、6位、8位、7位、であったが2017年は14位に後退した。なお足立美術館は16年連続1位である。

⑧「奈良工芸の粋」展（奈良新聞社主催）への展示会場の提供

奈良を代表する伝統工芸の各界の匠の作品の展示、即売を行う「奈良工芸の粋」展の第3回の展示が、3月7日（木）から3月11日（月）まで開催され、これに昨年の第2回に引き続き開催会場を有償で提供した。当財団としては、奈良工芸の発展を支援することも目的としている。

展覧会への入場者は昨年第2回の1,278人（うち招待客365人）とほぼ同じ1,275人（うち招待客853人）。奈良の工芸を紹介する場として定着してきているとともに、依水園を紹介する場としても機能しており、今後も継続して場所を提供の見込みである。

⑨その他

昨年に引き続き、珠光茶会 開催期間中の2月6日（水）から2月10日（日）まで、通常は非公開の清秀庵・氷心亭の茶室見学会を実施した。（今年は「依水園のひなまつり」の入場含め3,000円。（従来2,500円）解説および入園、入館、お抹茶、お菓子付き）。参加人数は5日間で60人。

（4）庭園整備について

平成15年度から実施されてきた国庫補助事業としての庭園整備事業は平成28年度で終了し、平成29年度以降は当面実施されない。

入園者数の増加とともに園路を初めとする庭園の傷みは、増加しつつある。平成30年度は、日常的な庭園の維持に加えて、雨落溝整備、手すり取り付け、結界設置、石張り補修、園路補修、竹垣やり替え、杉切り下げ、高生垣整備、藤棚塗装やり替え、南天植栽等を行ったため、昨年度の20,178千円よりは減少したが、16,583千円を要した。

平成27年度より14年間で9500万円を積み立てる予定の庭園整備特別準備預金については、平成27年度は、500万円、平成28年度は、800万円、平成29年度は、500万円を積立済みであり、平成30年度は、750万円を積み立てた。（計画1,000万円積立）今後は、三秀亭、柳生堂の屋根葺き替えの補助金事業申請を平成31年度に行う予定である。

(5) 文化活動について

①依水園文化講演会

- ・第19回 平成30年4月21日(土)

「依水園と翠門翁」

講師 岡本彰夫氏(奈良県立大学客員教授/宇賀志屋文庫庫長)

- ・第20回 平成30年12月15日(土)

「高麗青磁の世界」

講演「寧楽美術館の高麗青磁」

講師 鄭 銀珍(ジョンウンジン)(大阪市立東洋陶磁美術館学芸員)

鼎談 「高麗青磁の鑑賞と研究」

伊藤 郁太郎((大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長)

渡辺 弓雄(名勝依水園・寧楽美術館理事)

鄭 銀珍(大阪市立東洋陶磁美術館学芸員)

を、開催した。

②庭園大研究会

当財団主催の事業として13年目を迎えた、庭師育成の「庭園大研究会」は講師牧岡一生氏(庭舎 MAKIOKA 代表)の講義、実習とお茶の実習による月例の講習会を約20名の受講者を対象に継続開催中である。

(2) 収益事業の状況

収益事業のうち飲食事業の今期の売上は13,092千円で、前期の12,446千円の105%となり、入園者の前年度比112%と比べると1/2の増加にとどまった。従来は日本人入園者が、全体入園者ほど増加しないことが主な原因と考えられたが、今年度は日本人が前年同期比115%と増加しているにもかかわらずそれほど増加していない。抹茶の売り上げが前年度より23%増加しているにもかかわらず、食事の売り上げが8%減少していることが大きな要因であり、これは依水園外での食事施設の整備が進んでいることが原因と考えられる。

平成30年度の飲食事業の売上、費用、損益はそれぞれ以下の通りであった。

収益(含む雑収益)	13,092千円(前年度12,450千円)	前年度比	105%
費用	12,260千円(前年度12,711千円)	前年度比	96%

損益 832千円（前年度 -260千円）前年度比 -
費用減の原因は、平成29年度には、三秀亭内工事を行ったことによる。

物販事業は、ガイドブックの出版一時費用増等から、収益 1,078千円、費用1,705千円で損益627千円の赤字となった。

不動産事業は、今年度から貸家4軒がすべて空き家となり、収入は館舎分家賃と保険金（土塀崩壊）のみである、従って減価償却費、固定資産税等がほぼそのまま赤字となり、損益は1,407千円の赤字となった。空き家となった貸家およびその敷地の活用方法について、継続検討中であり、今年度は特に具体化はされなかった。

(3) 庶務事項

1. 組織・人員等

1) 主要事項

なし

2) 人員（平成31年3月31日 現在）

理事	6名（うち常勤2名）
監事	2名（非常勤）
評議員	6名（非常勤）
職員	24名

2. 役員会

1) 評議員会

定時評議員会（平成30年6月20日 依水園会議室）

- 議題
- ・平成29年度決算承認
 - ・役員（理事）選定
 - ・定款および報酬規程の変更
 - ・平成29年度事業報告

2) 理事会

第1回理事会（平成30年6月4日 依水園会議室）

- 議題
- ・平成29年度事業報告および決算報告
 - ・評議員会の招集
 - ・役員（理事）候補選定
 - ・定款および報酬規程の変更
 - ・副館長制定
 - ・特定資産取扱規程制定
 - ・特定資産「美術館開館55周年準備預金」保有
 - ・新耕産業株式譲渡
 - ・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告

第2回理事会（平成30年6月20日 依水園会議室）

- ・代表理事、業務執行理事、副館長選定

第3回理事会（平成31年2月25日 依水園会議室）

- 議題
- ・平成31年度事業計画書案および収支予算書案並びに資金調達および重要な設備投資の見込み
 - ・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告

以上